

ミソジニー。
「女性嫌悪」と
訳される。「女
ぎらい」とも――

性別二元制のジェンダー
秩序に深くふかく埋めこ
まれた核が、ミソジニー
だ。このシステムのもと
で男になり女になる者の
なかで、ミソジニーから
逃れられる者はいない。
「……」だが、ミソジニー
は男女にとって非対称に
働く。男にとっては「女
性蔑視」、女にとっては
「自己嫌悪」。

上野千鶴子『女ぎらい
ニッポンのミソジニー』
(朝日新聞出版・文庫)より

立教大学ジェンダーフォーラム 2019年度公開講演会

ミソジニー とは何か？

近年ジェンダー学の切り口が充実・先鋭化し、我々は多様なジェンダー現象を多角的に批判する方法論を手にしてきた。にも拘らず、日常生活や家庭、さらには就職活動現場など、最も身近な場面に「変わらず残る」性役割観念を見出して動揺する学生などを目にするにはいまだ多い。このような状況を受け、フェミニズム、女性学、さらにはジェンダー研究の進展とともに歩み、常に思潮の最先端を担ってこられた上野千鶴子氏を講師として迎え、フェミニズム思想の中核にある「ミソジニー（女性嫌悪）への抵抗」とは何かを考察することが、本公開講演会の主旨である。これを通し、学生を中心とする聴衆が、ジェンダー正義の理念を学び、みずからの生を省みる手がかりを得る機会を提供したい。

2019
11月
8日
金
18:00
▼
19:30

ところ
池袋キャンパス
8101教室
18号館



講師 上野 千鶴子氏

東京大学名誉教授・認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN)理事長

専門は女性学、ジェンダー研究。この分野のパイオニアであり、指導的な理論家のひとり。高齢者の介護とケアも研究テーマとしている。2013～2018年まで立教大学セカンドステージ大学で客員教授を務める。その経験の一部は『情報生産者になる』（ちくま新書、2018年）に紹介されている。1994年、『近代家族の成立と終焉』（岩波書店）でサントリー学芸賞受賞。その他著書多数。最新刊に『女ぎらい ニッポンのミソジニー』（朝日新聞出版・文庫、2018年）などがある。

入場無料
(事前申し込み必要)

参加申し込みは
コチラから➡

定員：400名
申し込み締切：
11月6日(水)



<https://forms.gle/Y5ADJWbXH24svaZh8>

お子様連れでのご来場をご希望の方は
下記事務局までお問い合わせください

撮影：菅野勝男



主催・お問い合わせ 立教大学ジェンダーフォーラム

TEL/FAX : 03-3985-2307 E-mail : gender@rikkyo.ac.jp
<http://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/gender/>